

官僚・政治家・実業家として活躍

やすひろ
安広 伴 一郎 やすひろ



ID 0034380

安広伴一郎（安政六年（一八五九）

～昭和二十六年（一九五一）は、

村上仏山の妻・久の甥にあたり、『仏

山堂詩鈔』の出版に尽力した安広

仙杖（紫川）の長男である。仏山

の開いた私塾・水哉園には明治六年

（一八七三）に入門している。

明治八年（一八七五）、上京し

て福沢諭吉の慶応義塾入学、明治

十一年（一九七八）には末松謙澄

の支援により香港に留学。帰国後

は山県有朋の知遇を得て、更にケ

ンブリッジ大学に学び、明治二十年

（一八八七）に法学士の学位を得て

いる。

明治二十一年（一八八八）第三

高等中学校（現在の京都大学総合

人間学部・岡山大学医学部）教員に、

その後官僚となり、明治二十三年

（一八九〇）内閣書記官、内務・文

部・通信各省を経て明治三十一年

（一八九八）内閣書記官長になる。

当時伴一郎は有朋の側近中の側近

といわれた。ちなみに伴一郎の妻は

有朋の義妹にあたる。

その後の経歴も豊富で、貴族院

勅選議員、農商務総務長官、製

鉄所（八幡）長官、法制局長官、

内閣恩給局長を経て、大正五年

（一九一六）には枢密顧問官。大正

十三年（一九二四）六月に南満洲

鉄道株式会社の社長に就任し、昭

和二年（一九二七）七月まで務め

ている。このように安広伴一郎の中

央での活躍は謙澄に勝るとも劣らぬ

ものがある。

晩年の伴一郎は神奈川県に住ん

だ。昭和五年（一九三〇）、『豊前

人物志』（昭和十四年刊行）の著者

山崎有信は伴一郎の実父「安広紫

川先生」について詳しく知りたいと

便りしたが、氏の謙遜なる、只僅

かに次の回答に接するのみ。

「拝復愚父の履歴のこと御尋に御座

候所……何等材料も無之候……」

伴一郎の謙虚な人柄が偲ばれる。

文豪・森鷗外も明治三十三年の

『小倉日記』の中で安広紫川と伴一

郎、その弟・亥三郎に触れている。

（村上仏山・末松謙澄顕彰会 徳永文昭）